

中島岳志
Takeshi Nakazima

変貌するインド社会と ヒンドゥー・ナショナリズムの 台頭



「インド」と聞くと、我々はそのようなイメージを思い描くであろうか？

概ね「ガンジス川で沐浴をする人々」に代表される悠久の大地のイメージと、「貧しい物乞い」に代表される貧困のイメージが、日本人の抱くインド像の典型であろう。しかし、インドは近年、一九九一年の市場開放以降、急激な経済発展を遂げてきており、デリーやムンバイのような都市では先進国と変わらないような光景が見られるようになってきている。

街中を歩けば、ジーンズにTシャツ姿の若い男女が携帯電話を片手にオープンカフェでコーヒーを飲んでいる姿を頻りに目にします。ヒジネスマンは暑い中、スーツにネクタイ姿で忙しそうに営業先を回っている。子供たちも危ないソトでは遊ばず、エアコンの効いた家の中でテレビゲームに熱中している。日本人が想

起するインドイメージとは大きくかけ離れた現実が、現在のインドの都市社会では展開しているのである。

大衆消費社会の発展に伴い、都市中間層のライフスタイルも大きく変化した。都市中間層の間では核家族で両親共働きというスタイルが定着し、電化製品の普及や外食産業の発展によりサーヴァントを雇う必要もなくなってきた。ヒジネスマンの多くは朝早く郊外の邸宅から自動車で出勤し、夜遅くに帰宅するという生活サイクルを繰り返す。子供たちの受験勉強のための塾通いなども一般化しつつある。

このようなライフスタイルの変化に伴って、都市における地域共同体の連帯は急速に希薄化していった。また、多忙を極める仕事や受験勉強などによる精神的ストレスの問題が急速に広がり、「経済的豊かさ」だけでは満たされない宗教的・スピリチュアルなもの

への関心が高まっていった。

この流れは、ヨーガの見直しやベジタリアンの増加、ヒンドゥーの宗教音楽をヒーリングミュージックとしてアレンジした音楽CDの市場拡大、新宗教やニュー・エイジ系諸団体の活性化などへとつながった。

さらに、広範なヒンドゥー復興現象も顕在化してきた。都市郊外の大型ヒンドゥー寺院への参拝客は年々増加の一途をたどり、聖地を巡る巡礼ツアーは各地で人気を博すようになっている。また、都市におけるヒンドゥーの祭礼が消費主義と結びついて再活性化し、年々大規模なものとなっている。さらに、都市の高級住宅地に住む裕福な人が、ヒジネスで築いた資産を寺院建設のために寄付したり、子供が成長し時間の余裕ができた女性がヒンドゥー慈善団体のボランティア活動に参加する姿なども目立つようになってきている。

このような新たなヒーリングブームやヒンドゥー復興現象を担う中間層は、過度の消費主義への反省的志向や「豊かさ」を充足したが故に発生する存在論的問い・悩みから発生する新たな現代的問題を

抱えている。彼らは「如何に生きるべきか」「私の存在とは何か」といった根源的なアイデンティティの問いを発し、それを掴もうとして彷徨っているのである。ただし、彼らは「経済的豊かさ」を全面的に否定し、それを放棄しようとしているわけではない。彼らは、過度の拝金主義や消費主義には否定的な態度を示す一方で、適度な「経済的豊かさ」を享受しつつ、精神的にも文化的にも豊かな生活を送ることを志向している。彼らは大衆消費社会が定着した都市生活において、包括的な豊かさを獲得することを目指し、その一環として宗教やスピリチュアルなものを見直そうとする傾向にある。

そして、このような志向性が、現代インドのヒンドゥー・ナシヨナリズムの拡大につながっている。ヒンドゥー・ナシヨナリズムとは一九八〇年代から徐々に高揚してきたムーヴメントで、日本では「ヒンドゥー至上主義」と呼ばれることが多い。この潮流は一九九一年の経済自由化以降、さらに拡大化を続け、ついに一九九八年にヒンドゥー・ナシヨナリズム政党であるインド人民党（BJP）が中央政府の政権を奪取した。現在の首相であるA・B・バールジは、このヒンドゥー・ナシヨナリズム運動を牽引する民族奉仕団（RSS）が排出した人物である。

現代インドで大きな勢力を築いているヒンドゥー・ナシヨナリズム運動は、イスラーム教徒やキリスト教徒に対する攻撃的な姿勢を鮮明にし、数々の暴動事件を引き起こしてきた。そのため、多くの人間の目的は、彼らの存在が一律に危険で狂信的な暴力主義者の集団と写る。また、世界中のメディアがそのような暴力的場面ばかりをクロージアップして伝えることで、人々の間にヒンドゥー・ナシヨナ

リストの粗暴なイメージが浸透している。しかし、一方で彼らの日常の活動は貧困地区などで行う教育や医療、衛生事業などが中心であり、政府が十分な公的サービスを提供できない中、ヒンドゥー・ナシヨナリストたちのボランティア活動は階層を越えて広範な支持を受けている。また、この運動に近年新たに加わる中間層の若者の多くは、「如何に生きるべきか」という切実な問いをもっており、自己実現の一環としてこの活動に参加している。彼らには排他的な暴力主義者としての側面は見受けられない。

この落差こそが、現代インドの抱える問題を象徴している。経済的な豊かさだけでは精神的な充足感を得ることができないという問題に直面した多くのインド人は、新たに「ヒンドゥー的なるもの」に拠り所を見出そうとしている。そのような志向性が広範な宗教の再活性化を生み出している反面、それが多くの部分で政治的なヒンドゥー・ナシヨナリズムの運動へと回収されていっている。もともとは「自己は如何にあるべきか」「私の存在とは何か」という存在論的アイデンティティを希求してヒンドゥーの精神を見つめ直そうとした人たちが、いつの間にか他宗教に対する排他的な態度をとる政治的アイデンティティの闘争に取り込まれてしまっているのである。

自己の存在論的アイデンティティと密接な関係をもつ宗教的価値を見つめ直しながらも、それが排他的なアイデンティティ・ポリティクスに回収されないような共生のあり方を現代インドは模索している。試練のときを迎えている。

（筆者）京都大学大学院（アジアアフリカ地域研究科）

愛書狂

毎春秋になるとやってくる

読書週間 五七回目にあたる

今年は一〇月二十七日～十一月

九日で、「ありますか？ 好き

だといえる一冊が……」が標

語だそうだ おもしろいの

は、この読書週間の標語であ

る。標語は時代を映す鏡とい

うけれど、標語と人心はしば

しば乖離することが、これを

追っていくとよくわかる た

とえば一九五七年の標語は

「そろって読書 明るい家庭

だった。が、この年のベスト

セラーは『挽歌』と『楢山節

考』で、「明るい家庭」とは

むしろ逆向きだ。「よい社会

ひとりひとりの読書から」と

ぶち上げた六〇年に売れたの

は『性生活の知恵』。性生活

が夫婦円満の秘訣だとすれ

ば、これだって「よい社会」

の根幹といえないこともない

が、でもおかしい。七〇年代

以降はいよいよ思惑がズレて

いき、「本との出会い 豊か

な心」を謳った七四年に売れ

たのは「豊かな心」というよ

り「不安な心」の『ノストラ

ダムスの大予言』。「燃えよ人

生！ 本とのふれあい」とブ

ルース・リー風に決めた七九

年は「燃えよ人生」のわりには

他力本願な『算命占星学入

門』。『天中殺入門』。「読書は

永遠のニューメディア」と新

しぶった八六年は「スーパー

マリオブラザーズ完全攻略

本」で、本はオールドメディ

アだって、もうバレーバレー

ん もっとも標語が啓蒙のた

めにあるのだとしたら、時代

と逆行するのは当然かもしれ

ない。今年の標語「あります

か？ 好きだといえる一冊が

……」も思えば意味深。「読ん

でりゃいいのよ一冊でも」と

聞き直っているようにも見え

るし、逆に末尾の「……」には

「ないかもしれない」という

弱気な心が垣間見える。「明

るい家庭」「よい社会」の頃

とはもつ違つのです。（洗）

歴史の反面教師

「日本史 不肖の息子」

森下賢一[著]



この親にしてこの子あり。だが歴史の皮肉は、大人の親から子どもに息子を輩出させることだ

親の困惑をよそに、往々にして彼らは酒色に浮き身をやり、破綻の人生を歩む。源頼朝の息子、頼家しかり、加藤清正の息子、忠弘しかり、林述斎の息子、島居耀

慢、臆病、陰険、猜疑、裏切り……。森鷗外の息子、森類

こつした、地獄の間魔から表彰さ

たまたま親は勢いに乗って、欠陥をさらけ出すことなく済んだか

もしれないが、息子はめぐり合わせが悪く、やることなすこと裏目

に出て、破滅の道を突き進んだのだとも考えられる。

本書は、日本の古代から昭和まで、二十一人の歴史的人物をとり

たの困惑、森下賢一著 定価一

九九五円(本体一九〇〇円)

それは大正十二年に起きた関東大震災によって、生家にあつた遺作の一切が焼失してしまつたから

である。

しかし、彼女の作品のおもかげは、自殺の翌年、地平社同人有志

の手によつて編集・刊行された『高間筆子詩画集』によつて、わづ

かにつかがい知ることができ

る。この詩画集を偶然手に入れた詩人の草野心平は、ほぼ同時代を生きた天折の画家、村山槐多、関根

正一と並んで、彼女を「大正期の若き天才オリオンズ」と呼び、高く評価した。

本書は、やはりこの詩画集に触発された著者が、「とことん自分の足で、はるか遠くにかすかに明

滅している画家の小さな後ろ姿を追いかけ」よつとした、異色の評伝である。

戦没画学生慰霊美術館、無言館」や、先の村山、関根、野田英夫ら天折画家の作品を展示する「信濃デッサン館」を運営する著者なら

では、執念ともいえる取材を通して、彼女のむせかえるような生命の叫びと、身もたえすような性への懐きを、万感の思いでつづ

っている。

日本の近代美術史の記録から抜け落ちた、不羈奔放でアウトローな闊歩画家を知る、絶好の書

四六判 二〇〇頁+カラー八頁+モノクロ八頁 定価二九四〇円(本体二八〇〇円)

百冊を超える名自伝を紹介しながら、人生の各場面で先人はどう表現してきたか、なぜ書いたのかというヒントを教える。

さらに、どうしても書けない人のために、これまで書かれた「口述筆記」での自伝をあげ、その方法や刊行の仕方まで言及している。



人生を肯定するために

「自伝の書き方」

石田修次[著]

どの自伝も、これら人生のさまざまなまでどこに触れ、あるときは自分を叱責し、あるときは信念をもつて訴えよつとす。

だが自伝を書くことには、結局自分自身を肯定する作業である。若き日の過ち、決断に当たつて下した判断のミス、知らずに周囲を傷つけていた悔恨、そんなことをつづりながら、自己弁護を

入門書である。

それは大正十二年に起きた関東大震災によって、生家にあつた遺作の一切が焼失してしまつたからである。

優れた具体例を満載

「ここが違う、ドイツの環境政策」

今泉みね子[著]



環境対策のアイデアや勇気をもつた人を紹介する前著『ドイツを変えた10人の環境パイオニア』は、読み易さと秀逸ぶりで二十余の紙誌で絶賛されました。

本書はその姉妹篇ともいふべき本で、今回はエネルギー、交通、ゴミ、教育

水、観光等のテーマに則しつ、環境先進国ドイツの政策や対策を紹介しています。市民レベルから自治体や国レベルに至るまでの取組みが具体的に示されているので、読み易く、また大いに参考になるでしょう。

例えば、地下水保護や洪水対策のた

め、フライブルク市の「分割下水料金システム」。雨水が地中にしみ込むよう敷地を緑化したり屋根を緑化する

と、その面積が安くなる。「環境に良いことをすれば経済的に

も得」という考え方は、地面は芝生か砂利が浸透性敷石かで細かく割引率も決められるという徹底ぶり！

このことですが、詳しくは本書でござ

著者の環境保全、環境対策に関する広い知見と、人を見る洞察力あふれる眼差しも魅力的です。各章とも図表や数式などは用いず、誰もがエッセイ感覚で読める書きぶりであり、また、

個々の実際には問合せ先の電話番号やメールアドレス、URLの掲載なども配慮されています。環境学を学ぶ学生や自治体、企業必読の格好の環境読本と言えます。

四六判 二〇〇頁 定価一七八五円(本体一七〇〇円)

初めての本格的な伝記

「ジヨルジョ・ヴァザーリ メディチ家の演出者」

ロラン・モト[著]



ヴァザーリは、美術家列伝の著者としてつとに有名である。チンブーエから彼自身の時代にいたる約三百年間にわたるイタリアの画家・彫刻家・建築家の生涯と作品を扱った「列伝」が後世に与えた影響はかり知れない。

彼は伝記作家として活躍しただけでなく、画家、建築家、都市計画家として才能を発揮し、数多くの作品を残している。フィレンツェのウフィツィ美術館は彼の設計によるものである。本書は、ウオーモ・ウニベルサル(万能の人)、ルネサンス人の典型ともい

べきヴァザーリの初めての本格的な伝記である。

著者のロラン・モトは、ヴァザーリの生涯を「列伝」の作者としての一面だけでなく、ルネサンス人にふさわしい多才な人物として、多くの史料にもとづき簡潔な文体で描いている。それは、彼の生まれ育つた町の風景が

ら始まり、作家・歴史家・理論家として、また画家・都市計画家として活躍したヴァザーリ、功なり名を遂げた晩年の姿まで、実に詳細に続き、『美術家列伝』誕生の経緯と、著者の生涯をあますところなく描いている。

と同じく、ヴァザーリを単に美術史上のキーマンとしてではなく、政治的にもメディチ家と密接にかかわった人物としてとらえており、本書はメディチ家支配化のフィレンツェの政治、文化をも俯瞰する格好な書となっている。

平川祐弘 平川恵子訳 A5判 六一八頁 定価七二四〇円(本体六八〇〇円)

個人

そのまま歴史の深い闇に降り立つことでもある。狂おしいまでの切実さ。W・G・ゼーバルトは、20世紀が遺した最後の偉大な作家である。柴田元幸

外国語を身につけるための日本語

白水社の本棚

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusuisha.co.jp

外国語を身につけるための日本語

「まず日本語を鍛えよ。これぞまさに言語の極意である」

『英語達人列伝』の著者、東京大学助教授、齋藤兆史氏推薦！

二森ゆりか レッスン

四六判/218頁 定価1575円(本体1500円)



日本語でできないことは、外国語でも決してできるようにはなりません。有効な質問のしかたや答えかた、相手にわかりやすい説明のしかたなど、欧米の学校教育では当たり前の「言語技術」をまず日本語で鍛えることこそ、外国語習得の近道なのです。

好評図書

アウステルリッツ

W・G・ゼーバルト 鈴木仁子訳

四六判/299頁 定価2310円(本体2200円)

全米批評家協会賞受賞。欧米で最高の賛辞を受けた世紀の傑作。

個人

そのまま歴史の深い闇に降り立つことでもある。狂おしいまでの切実さ。W・G・ゼーバルトは、20世紀が遺した最後の偉大な作家である。柴田元幸



別役流「ウケる技術」

「別役実のコント教室 不条理な笑いへのレッスン」

別役 実著



別役実のコント教室 不条理な笑いへのレッスン

不条理な笑いならば、おまかせあれ！本書は、日本劇作家協会主宰による「劇作教室」のうち、別役実の七回にわたる述べ十四時間の講義を、単行本化、笑つたための寸劇「コント」の書き方を実践的に学ぼうという趣旨の本である。劇作において「笑い」の重要性は日々増しつつあり、「笑い」をどう作り考えるかが今や、戯曲を

現代的なものとして成立させようか否かに、関わっているからだ。さらには、コントという原稿用紙で十枚ほどの寸劇について学び、そこで習得した「ウケる技術」を応用しさえすれば、「一幕もの戯曲」を完成させる方法が得られる。それゆえ本書では、まず、著者が自身が実作の過程にて身につけてきたさまざまなドラマツルギーや講義に出てくるキーワードはと



「ややこしや」の原典！ 「まちがいの狂言」 高橋康也[著]

「ややこしや」の原典！

「まちがいの狂言」

高橋康也[著]

このところ祝文のような言葉が唱えられ、幼児が増殖しているという事実を、ご存知だろうか？ 両手を水平に広げて首をかしげ、体を左右に動かす、または手を叩いて跳ねながら、うねるような節回りで繰り返す。その謎をくぐり、何を隠そう、本書である。

踊る愉快な「ややこしや」の楽しさが子供たちに広まっているのだ。親子で楽しめる本書の刊行は、実にこの「ややこしや」(東京大学助教授・河合祥一郎氏)。そして、子供たちの間でブームを巻き起こしている日本語「ややこしや」は、ここから誕生！ 本書は、シエイクスピアおよびベケット研究の第一人者として知られる著者による、新作狂言集「ややこしや」が、劇の幕開きと幕切れに離れ言葉として語られている作品こそが、表題作なのである。シエイクスピアの「間違った喜劇」をもとに、その物語設定を日本の室町時代に翻案して書き下ろされた作品だ。

学生演劇のバイブル

「天使は瞳を閉じて」(クラシック版)

鴻上尚史[作]



天使は瞳を閉じて 鴻上尚史

滅びかけた地球に、わずかな人が残された。その人間たちを見つめている天使の仕事は、人間たちの行方を目撃し、記録してゆくことだった。ただ見守るだけという、天使の規則を守って。

アップした！「幸運なことに、この作品は『テントジ』という玉子井と天井に近い愛称をもらい、自分で言うのも恥ずかしいですが、学生演劇のバイブルなんです」と「こべ」を与えられて、全国で上演され続けています(本書「こべいさつ」に「こべ」より、著者自ら語るロングセラーが、大幅に改稿され、ついに、決定版として

その街は、とても奇妙だった。人口は半日で数えられるほどだといふのに、そこには、テレビ局も新聞社も、コンピュータネットワークまで、存在するのだ。人びとは、食べ物のダイエットに励みながら、休む間もなく、情報を食べ続けている。もうひとつの

著者生誕百年記念《新装復刊》

「中央アジア探検史(新装版)」

深田久弥[著]



中央アジア探検史 深田久弥

「中央アジア」「夢」「謎」「冒険」を感じるという名称は、人によってその地域の範囲はまちまちであり、学問的な定義はむずかしいといふ。しかし著者はこう記す。中央アジアという言葉には魅力があつて、他の名称がまったくこれに代わることはない。その言葉のなかに、夢があり、謎があり、冒険があつた。中央アジアと聞いただけで、荒涼とした砂漠や、氷雪をいただいた高山や、羊を追う遊牧の民や、長々と続いたキャラバンの列を思い起こす。

「まちがいの狂言」

「まちがいの狂言」では、生き別れになっていた一組の双子が、瀬戸内海沿岸の同じ町に合わせ、たことできる取り違え騒動を、「自分とは何か」というテーマのもと、面白く、物語つてゆく。また、併録作品「法螺貝」は同じくシエイクスピアの「ウィンザーの陽気な女房たち」を主筋としつつ、「ヘンリー四世」の登場人物フォレストアップのイメージも盛り込んで、酒好き女好き太鼓腹の巨漢武士の姿を描いた喜劇。舞台写真も多数収録されているので、野村萬斎ファンにも魅力的な一冊と言えるだろう。協力万作の会 四六判 一七四頁 定価一八九〇円(本体一八〇〇円)

文庫クセジュ

「Oregos」

「ギリシア文法(改訂新版)」

シャルル・ギロー[著]

紀元前から使われてきている、人類において最も輝かしい文化の道具 すなわちギリシア語は、今日のヨーロッパの諸言語に多くの痕跡をとどめている。本書は、その複雑な系譜を代表する古典期のアッティカ方言を中心に歴史的推移を考慮した上で、(音韻論や名詞形態論、動詞形態論……などの切り口から)理論的に体系づけつつ、ギリシア文法を詳しく解説してゆく。記念碑的名著の、まさに、待望久しい改訂新版。

「Oregos」

「ロボットの世紀」

シル・フィエウ[著]

カレル・チャペックの戯曲作品『ロツサム万能ロボット(RUR)』のなかに初登場した、チェコ語で「強制労働」という意味の単語から導き出されたもの。ロボットという言葉の響きと、その存在が、二十世紀の新しい科学的潮流のなかで、ますます、親しみやすい身近なものになってきている。

文庫クセジュ

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusisha.co.jp

白水社の本棚

- 哲学・心理学・宗教
 - デスアール他/阿部静子他訳 透視術予言と占いの歴史
 - ソレル/藤本由佳訳 オルフエウス教
 - ロメイエデルベル/神崎繁他訳 ソフィスト列伝
 - ワロン/加藤義信他訳 子どもの絵の心理学入門
 - ラコスト/阿部成樹訳 芸術哲学入門
 - タルデュノ/大貫隆他訳 マニエ
 - グリマル/鈴木暁訳 セネカ
- 歴史・地理・民族(俗学)
 - タルマン/長谷川公昭訳 ヴァイマル共和国
 - コンタミーヌ/坂巻昭訳 百年戦争
 - センブリニ/三浦信孝他訳 多文化主義とは何か
 - ブリアン/田村孝訳 アレクサンドロス大王
 - ドリエージュ/今枝由郎訳 ガンジーの実像
 - アーシュロン/私市正年他訳 アーシュロン/私市正年他訳
 - ファーヴル/染田秀藤訳 インディヘニスモ
 - ラテンアメリカ先住民擁護運動の歴史
 - コンポー/小林茂訳 パリの歴史(新版)
 - シャニユー他/花瀬馨也訳 コモロ諸島
 - ルゴエレル/福本秀子訳 プランタジネット家の人びと
 - ミソクテラル/加納修訳 クローヴィス
 - カステラン他/千田善他訳 クロアチア
 - カステラン他/千田善訳 カステラン他/千田善訳
 - スロヴェニア
 - レイ・タン・コイ/石澤良昭訳 東南アジア史(増補新版)
 - ベック/山北谷寿戸訳 ヴェネツィア史
 - コラノ/有田忠郎訳 レコンキスタの歴史
- 社会科学
 - マルチニエツロ/宮島善訳 エスニシティの社会学
 - シソッティ他/瀧口清隆訳 ヨーロッパの超特急
 - メリアン/石塚秀雄訳 福祉国家
 - クニエツワッター/三保元訳 トクヴィル
- 芸術・趣味
 - サロワノ/波多野宏之他訳 フランスの美術館博物館
 - ジッリノ/本多力訳 洞窟探検入門
 - モニエ/森島勇訳 二十世紀の建築
 - ルロワノ/池上公平他訳 中世イタリア絵画
 - ブワノ/水嶋英治訳 博物館学への招待
 - バルル・イ・アルテ/西田雅嗣訳 中世の芸術
- 文学・語学
 - バリバル/矢野正俊訳 フランス文学の歴史
 - カルヴェ/藤屋生訳 社会言語学
 - ダンシエル/遠山一郎他訳 ラテン語の歴史
 - クラレノ/倉田清他訳 語の選択
 - シュワレル/福田隆太郎訳 比較文学(新版)
 - ド・ロミイ/有田潤訳 ホメロス
 - ルワール/佐野泰雄訳 レトリック
 - ショダグソン/横谷啓介他訳 クレオール語
 - カルヴェノ/西山教行訳 言語政策とは何か
 - プランシヨ/森本英夫他訳 英語語源学
- 自然科学
 - レンペール/松岡芳隆他訳 時間生物学とは何か
 - ロラン他/唐牛孝子訳 宇宙生物学への招待

*価格はすべて定価999円(本体951円)です。

「フランス語を始めませんか たったこれだけ、基本の基力(CD付)」
久松健一[著]

「フランス語を始めたい。でも発音がむずかしそう...」
ちょっと待ってください。カフェオレ、フォアグラ、エスカルゴ、プレタポルテに、クーデター...あなたはこんなに知っています。
そんな知識を手がかりに、基本中の基本を鮮やかにご案内。発音7つのポイント、9つの必須文法、3語でできる日常会話 たったこれだけで、わかる、聞こえる、使えます。これならわかる! **基本の基本となる力を養う本。**
四六判 107頁 定価1260円(本体1200円)

「フランス基本熟語集 (CD付・新装版)」 佐藤房吉[著]

やさしい単語も他の単語とチームを組むと、1プラス1が3になったり.....。単純に2にならないのが熟語の難しさです。しかもそれらの単語が熟語であることすら分からない場合もあるので、ますます厄介です。本書は日常よく使う熟語約800を、実用性十分な文例を挙げ歯切れよく解説。随所に付けられた注釈が正しい用法に導くと共に、「熟語かな?」という熟語感知力も養います。声に出して読めるCDも付き、会話の練習に《仏検》対策にと活用は自在。巻末に「熟語と冠詞」解説、欧文・和文総索引。
四六判 229頁 定価1995円(本体1900円)

「CDエクスプレス ペルシア語 (CD付)」 藤元優子[著]

イランの公用語であるペルシア語は、ミミズが這ったような文字で難しく感じますが、実は、文の語順は日本語とほぼ同じであるうえに、動詞の語尾は各人称ごとに統一されているので、日本人にとって決して習得困難な言葉ではありません。
速く着実に「読み・書き・話す」ための基礎をマスターできると定評のある、このエクスプレスで、「中東のフランス語」とも呼ばれる美しいペルシア語を一度学んでみませんか。
A5判 172頁 定価3045円(本体2900円)



最新型・旅の会話シリーズ! わかりやすい・読みやすい! 出発から帰国まで、すぐ/かならず使う便利な表現のエッセンス。ケータイ持って街ゆくノリで、ことばをもって旅に出よう!

「ことたびロシア語 (CD付)」 佐々木精治[著]

[2色刷] A5変型 136頁 定価1785円(本体1700円) 11月下旬発売

「ことたびヒンディー語 (CD付)」 町田和彦[著]

[2色刷] A5変型 139頁 定価1995円(本体1900円) 11月下旬発売

本の十字路

おおかたの日本人にとって耳にこちよく響く虫の声も、脳のしくみの関係で欧米人には雑音に感じられる。その「鳴いている」感覚がわからないのか答えが返ってこない、というエピソードをなにかの本で読んで、それが風情を添へた(森鉄三「雑記帳」)。秋には「虫の壁」に囲まれていると思う人間にはつらやむような情景だ。

先日とある書店さんの事務所におじゃますると、「カレー部員募集!」の貼り紙が。カレーの食歩好きが高じて部をつくってしまうのは、わが社だけではなかったのです。早速、交流試合を申し込みました。ところでカレーを自分で作る方におすすみたいなのが、私自身愛用しているレシビ本『カレーな薬膳』(晶文社刊)です。取り上げられている南インドの料理は、野菜豊富な上に油控えめ、スパイスが身体に効くまじく「薬膳」カレー。みなさんも新しいレパートリーにぜひ。

長く品切れとなっておりまして、古代教会スラブ語入門の新装版(本体五八〇〇円)が出来上がりました。オンデマンドシステムを利用することで、少数数の復刊が可能となりました。小社としては初の試みです。技術革新により出版のスタイルが変わろうとしているのを実感します。今後の企画にもご期待ください。【お願】住所表記が変更になりました。旧住所・旧住所、お届けいたしております本紙のお客さまコードをお知らせください。

営業部 だより

今年の春、わが編集部に入社した新人が入った。偶然にも二人の苗字は同じS。まあ、わが国でもっとも多い苗字だから二人いたって不思議はないが、創立九〇年近いわが社でSを採用したのは初めてだとか。紛らわしいので二人とも下の名前と呼ばれることになった。その一人が私なのだ。なんだか特別扱いされているみたいで結構嬉しかったりする。昔からSさんと呼ばれて妄想してしまう。(S)

『インデックス式ラテン文法表』



ラテン文法の基本項目をコンパクトにまとめ、求める項目を即座に引けるようインデックス形式にしました。
有田 潤著
B6判/64頁
定価1680円(本体1600円)

『ラテン語練習問題集』
中山恒夫著
四六判/160頁
定価2940円(本体2800円)

この四月より勤務先が変わった。キャンパスは新宿から西へ向かう私鉄沿線で、各駅停車しか停まらない静かな駅から線路沿いに一〇分ほど歩いたところにある。そこまではいいのだが、大学の門をくぐり、守衛さんに挨拶して中に入ると、そこから急な坂が続いている。傾斜もけっこうキツイ。上を見ながら登っていくと、先がずいぶん遠いように思えて辛くなるので、ついつい下を向いてしまったり坂を登るの重たい二つ間を、なんとか楽しく過ごせないものか? といったときに文法変化を覚えたらどうだろう。それだったら古典語。坂を登りながら名詞の格変化を暗唱するなんて、さながら修道士のごとし。となれば当然ラテン語。なんとも強引な発想である。『インデックス式ラテン文法表』は変化形がきれいにまとめているリファレンス用の参考書である。こういったものはスイスイ読むのではなく、じっくりと眺める。そんなに重たい本でもないからこれを読みながら坂を登ってもいいのだが、それだといかにも勉強という感じでちょっと恥ずかしい。そこで変化表をコピーして5x3カードに一つずつ貼っておき、これを胸のポケットへ数枚忍ばせることにした。これなら雨が降っていても、片手に力さを持ちながらカードとニラメッコができる。

とはいえ変化表を眺めているだけでは消極的。もっとしっかりと身につけたければ、中山恒夫『ラテン語練習問題集』で勉強するのがいいと思う。でも、坂を登りながら練習問題はやれない。『インデックス式』と『練習問題集』にはちょっとした違いがある。名詞の格を並べるときは順番が、『インデックス式』は主格、対格、属格、与格、奪格で、『練習問題集』では主格、属格、与格、対格、奪格が基本となっている。他にも呼格が出没するので、些末なことだが覚えるときにはちょっとだけ注意が必要である。

古語をやるときに、焦るのは禁物。坂を登るスピードと同じく急ぐと息が上がってしまうので、とにかく確実に一歩ずつが大切なのである。それに、急いで上達する必要もない。坂を登るのが、知的になり、実用ばかりの現代にこんなことをノロノロやっている、なんとなく気分がいい。ラテン語にはそんな魅力がある。
(筆者) 明治大学助教授)

黒田龍之助の 語学書書評



『インデックス式ラテン文法表』

ハンディな西和 + 和西辞典!

スペイン語 三辞典

西和 + 和西 [改訂版]

宮本博司[編]

B小型 670頁 定価2940円(本体2800円)[2色刷]



学習者、旅行者がいつでも、どこでも、すぐに使えるハンディな西和 + 和西辞典(さらにジャンル別!)として大好評をいただいていたが、刊行から10年が過ぎ、今回さまざまな改良を加えて全面改訂しました。

小型の辞典を作る上でいちばん難しいのはどのような単語と意味を精選して載せるかですが、今回はインターネットや小説・新聞を基にしたデータベースを利用して単語の使用頻度を調べ、学習とスペイン語圏での旅行や生活に必要な見出語や表現を選び出し、語義の配列順もすべて見直しました。

西和の部は新語を多数追加、古めかしい言葉は削除して15,400語引きやすいように2色刷にしました。

見出語は1994年の新アルファベット配列に従いました。不規則な動詞の変化形・過去分詞・形容詞など、初学者が引きにくい形も見出語に追加し、元の形がわかるようにしました。

発音はカタカナ表記。用例や例文をさらに実用的なものに替えました。

ジャンル別の図解語彙集では、医学・料理・スポーツ・コンピュータなどで語数を大幅に増やし、4,600語近くになりました。

和西の部では、スペイン語をさらに選び抜いた一方、応用のきく例文を追加しました。語数は4,700語です。

動詞活用表は、動詞の数を大幅に増やし、使いやすくしました。